

重点施策7 市民総参加のスポーツと健康教育の推進

【施策方針】

生涯にわたって、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図り、市民が健康で明るく生活できるよう努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 生涯スポーツの振興
- ② スポーツ活動体制の充実・強化、学校体育との連携
- ③ スポーツ・レクリエーション施設の整備、野外活動の推進
- ④ 愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会の開催

(2) 施策・事業の実施状況

① 生涯スポーツの振興

スポーツに親しむ市民の拡大と継続したスポーツの推進を図り、社会体育を通じて、すべての市民が健康で明るく生活できるよう努めた。

- ・ 市体育協会への助成を通じて、優秀な成績を収めた方の顕彰や、スポーツ大会の開催、全国大会などへの出場者に助成を行うなど、スポーツ活動の振興を図った。
- ・ スポーツ少年団への助成を通じて、交流研修会、体験発表会、ソフトボール及びサッカー大会を開催した。また、大会の参加や開催を促進し、競技力の向上に努めた。
- ・ 生涯にわたってスポーツに親しみ、健康で活力ある地域社会を実現し、えひめ国体の開催を市全体で盛り上げて行くため、「ソフトボールチーム愛媛ウエストによる小学生を対象としたソフトボール教室」「山本隆弘氏とパナソニックパンサーズによる小中学生を対象としたバレーボール教室」を開催した。
- ・ スポーツ推進委員によるドッジボール大会を開催するなど、生涯スポーツの普及に努めた。
- ・ 公認スポーツ指導員等の資格取得に対して助成を行うなど、指導者の育成及び確保に努めた。
- ・ 社会体育施設の保守点検を適宜行い、不良箇所の修理を行うことにより、安全で快適なスポーツ、レクリエーション活動の環境整備に努めた。
- ・ 市民スポーツフェスタ 2017 (17 地区公民館、1,119 名参加)、第 38 回八幡浜市クロッケー大会 (16 チーム、58 名参加)、市民健康マラソン (716 名参加)、八幡

浜駅伝カーニバル（112 チーム、560 名参加）の開催など、市民が気軽に参加できるスポーツ大会を開催し、市民へのスポーツ、レクリエーションの機会を提供した。

② スポーツ活動体制の充実・強化、学校体育との連携

市民のスポーツ活動の場として、学校体育施設を開放し、広くスポーツの健全な普及促進と健康増進を図るとともに、学校体育との協力体制の推進に努めた。

- ・ 学校施設の体育館及びグラウンドの開放を行い、市民へのスポーツ、レクリエーション活動の場を提供した。

③ スポーツ・レクリエーション施設の整備、野外活動の促進

児童生徒の自然とのふれあいの中での豊かな人間性を養う野外活動の展開を図った。

- ・ 第49回八幡浜市歩け歩け大会(700名参加)、やわたはま国際MTBレース2017(4,800名参加)、シクロクロスやわたはま(250名参加)などのアウトドアスポーツイベントを開催し、スポーツ交流人口の増加と地域振興を図った。
- ・ マウンテンバイクの貸出し事業を実施するとともに、定期的にマウンテンバイク教室を実施し、競技の普及促進に努めた。また、地域の子ども達を対象としたマウンテンバイクの普及活動を行った。
- ・ トレーニング室の改修を行い、あわせてトレーニング機器のリニューアルを行った。
- ・ 市民からの要望を受け、市立八幡浜総合病院立体駐車場屋上に砂入り人工芝テニスコート2面の新設を行った。

④ 愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会の開催

大会前は、市民に対する周知と理解を深めてもらうため広報啓発活動を積極的に実施した。また、庁内組織として市実施本部を設置して、協会の競技役員、市民ボランティア、関係団体との連携を密に取りながら、円滑に大会を運営できた。

なお、大会期間中は、市内の小中学校、公民館、各種団体の協力を得て地元のみならず県外チームの応援団を結成するなど会場を盛り上げ、出場選手からも好評であった。

【事務事業点検評価委員意見】

- 市民が生涯にわたって心身共に豊かな生活ができるよう、スポーツレクリエーションの大切さは常に言われ続けている。2020年の東京オリンピックに向けて、市民のスポーツに対する関心度は大変高まっている。高齢化が進む中、市民の声に対応できる社会体育の推進をお願いしたい。
- 一流選手による「スポーツ教室」は、子どもたちの夢と技術の向上につながっていると思

うので、今後もさらに充実してほしい。

- スポーツ少年団は、青少年の健全育成に大変貢献していると思う。今後も団員の減少が進むと思われるが、スポーツを通して子どもたちの健全育成のための助成をお願いしたい。
- 「愛顔つなぐえひめ国体」は、事前の綿密な打ち合わせにより、円滑に運営できたのではないかと思う。今回の、産・官・学の連携を今後の事業にも生かしたいものである。

【自己評価】

- オリンピック、スポーツマスターズなど、年齢問わず誰もが関心となる大規模なスポーツイベントをきっかけとして、社会体育を通じ、スポーツに親しむ市民の拡大と継続したスポーツの推進を図りたい。また、市内の社会体育施設及び学校施設の開放を行っている。安全かつ快適なスポーツ活動の場を提供できるよう、適時適切な施設営繕に努める。
- 企業の社会貢献活動のもと、子どもたちがトップアスリートとスポーツを通じて交流することは、大変意義があるものと感じている。今後もできる限り機会を提供していきたい。
- スポーツ活動を通じた青少年の健全育成を図るため、今後もスポーツ少年団活動を下支えするための助成を行っていく。また、少子化の影響を受け、単位団及び団員数が減少傾向にあるが、過去の行事内容にとらわれず、市内のスポーツ少年団全体での交流事業を充実することによって、スポーツ少年団活動を維持していくことを前提に検討する。
- 今回のえひめ国体においては、各種団体等の協力を得て大成功のうちに幕を閉じたが、担当者においては関係者との綿密な連絡、調整に苦労が絶えなかった。今後もスポーツに限らず様々な分野において、行政以外からの協力を得ながら、えひめ国体で受け継いだレガシーを今後のスポーツ振興に繋がるよう前向きに努める。